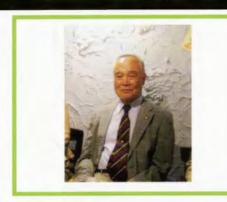
先生方の湘南回顧録 9



日本一を目指して

元湘南高校保健体育科教諭・32回生 山田 勉 (昭和36年~54年)

昭和36年、定時制最初の体育科専任教師として赴任しました。赴任した頃は体操の先生と呼ばれていましたが、努力して、体育の先生になりました。別名 山田ベン、ベンチャン。体育の授業は遊びと思っている生徒に、他の教科と同じ授業なのであると教えました。

陸上競技との出会い

中学3年で県大会砲丸投げで4位に入賞、湘南高校在学の先輩から、湘南にきて陸上競技をやってはどうかと声を掛けられました。昭和28年10月湘南高校で大会があると言われ、見学に行きました。湘南の選手は100M、200M、800M、1500M、400MR、1600MRと勝ち、その圧倒的な活躍を見て、合格したらぜひ陸上部に入りたいと思いました。

幸い合格して教科書販売の日に学校に行くと、顧問の細谷先生から、教科書はいつでも買えるから、今すぐ家に帰り、布団とコメ、お金を持って学校に来いと言われ、自転車に載せて学校に来てそのまま合宿に入りました。この合宿は陸上競技をやっていて一番辛い合宿でした。

そんな訳で陸上競技にのめり込み、勉強はあまりしませんでした。テストが終わる度に担任の雨宮先生に呼ばれ、勉強をしろと怒られました。陸上をやめろと言われないように、トレパン、トレシャツは必ず自分で洗濯しました。その習慣は現在も続けています。

1年生の時、先輩から「全国大会を目指そう」と誘われ、猛練習をしました。その甲斐あって2年、3年と全国大会に出場、3年の時は円盤、ハンマー投げ全国2位となりました。

日本一の体育祭を目指して

学校行事で、この行事をやり遂げたら卒業生と認められるような行事、例えば甲府一高の「上田までの 100 キロ徒歩」のような行事ができないか、体育科の中で検討したことがありました。しかし、交通事情で徒歩は無理。そこで、今ある行事の中で工夫をしてやることはできないかと考え、全員で行う体育祭を盛んにし、最大の行事として湘南のシンボルにしようと話し合いました。やるからには「日本一の体育祭」を目指すこととしたのです。

①生徒中心に運営する

生徒は将来社会のリーダーになる。机上プランはできるが実際に人を動かすことの難しさを経験させる。

②総合教育の場として位置づける 競技は体系 仮法の振りはははない

競技は体育、仮装の振り付けはダンスと音楽、バックボードは美術と工作の面がある。

③人と人の関係を強める

横の人間関係は同級生でできる。縦の人間関係は部活動でもしないと機会がないが、1、2、3年からなる色別チームは最高の縦関係を作る。

以上の3大目標を掲げ、生徒に最高のものを創造させ、 達成感を経験させることにしたのです。若さと情熱を ぶっつけあい、一つの目標に向かって一丸となって行 うことの大切さを会得させるには体育祭が最適な場だ と今も思っています。さらに、卒業してから、体育祭 の体験が初対面の同窓の間で親しくなるきっかけにも なっているはずです。

湘南 Spirit を求めて続けて

湘南高校を卒業して湘南の教壇に立って絶えず頭の中にあったことは、湘南 Spirit とはどんなものなのか、生徒にどう教えたら良いのかということでした。

在学中は赤木先生には直接お目にかかったこともなく、薫陶を受けたこともない。それどころか、高3の全国大会中にお亡くなりになってしまったのです。

大会から藤沢に帰り、 早朝真っ先に行ったの が、当時の校長松川先 生宅で、玄関に出てこ られた先生から前夜の 赤木先生のお通夜のこ とを聞かされました。

赤木先生は日本一の 学校を目指し学校づく りをされました。しか し湘南 Spirit の理念 は、私にはなかなか伝 わってきませんでした。

ところで私は定年退職後、当時の天野湘友 会会長に声をかけられ 湘友会の仕事をするよ



全国マスターズ大会 (2011年)

うになり、湘南時代の教え子の成長を見守る役目を与えられたと考え、喜んで参加させてもらいました。そこで企画広報の委員になり、会報の編集に携わりました

私の最後の赴任先である横浜翠嵐高校では初代校長 滝沢又市先生の提唱された「大平凡主義」について書 かれている小冊子「美なりや翠嵐」があり、新入生に 配布されていました。内容は「大平凡主義」、校歌、校 名の変遷と由来、校章の由来等です。湘南でも赤木先 生の教育目標、校史の冊子を作ってはどうかと提案し、 それが現在、湘南の新入生と卒業生に手渡している小 冊子「秀麗の富士 湘南」につながりました。

さて「湘南 Spirit」とは、「日本一になるような高い目標に向かって努力する気構え、気持ち、結果でなく過程」なのか?「湘南 Spirit」を求める旅も体力、気力が段々弱まり、今は「天才バカボン」の歌の最後にある"これでいいのだ"の心境なのです。